

第2戦 FUJI GT 3Hours RACE 富士スピードウェイ

予選 **5月3日(日)**

天候：曇り コース状況：ドライ

ゴールデンウィーク恒例のSUPER GT第2戦富士ラウンドは、5月3～4日に開催。開幕戦で2位表彰台を獲得した堤優威、ト部和久という新コンビのHYPER WATER INGING GR86 GTは、今回40kgというサクセスウェイトを搭載して3時間レースに臨む。搬入日の2日は五月晴れに恵まれたが、3日朝は雲が増え西寄りの風もやや強くなり、午後の公式予選は曇天で空気も徐々に冷えて来た。そして結果はクラス29台中17位と、明日の決勝は中団からのスタートとなる。

予選：17位



曇りときどき晴れ、気温21℃、路面温度34℃というコンディションの10時30分に公式練習は始まった。富士山には上空の雲の影が掛かってはいるものの、美しい姿を見せている。前日から入場したファンたちはコースサイドにテントを建てバーベキューを楽しみながらの観戦。このセッションでは堤がセッティングを確認し1分37秒066のベストタイムをマークしてト部に交代。しかしト部のタイムが伸びずセッティングを細かく変更して予選に臨むことになった。このセッションではトップと0秒689差の10位だった。

14時20分からスタートした公式予選のHYPER WATER INGING GR86 GTは開幕戦の結果により14台からなるB組に区分。雲の厚みが増え、気温は21℃ながら路面温度は27℃まで下がっている。B組のQ1は14時38分に10分間行われる。上位9台に入ればQ2への進出となるが、今回は確実にQ2進出を果たすために、堤がQ1のドライバーを担当した。堤は計測4周目に1分36秒180のトップタイムをマーク。その後トップタイムは更新されたものの、次の周に1分35秒934へタイムアップし2位。しかしその後2台が堤のタイムを上回り4位となったが無事Q2進出を果たした。

15時13分に10分間のQ2が始まった。セッション終盤にはポツポツと細かい雨が落ちて来た。ト部は前後の車両との間隔を調整しながら残り2分となった計測4周目に1分36秒414をマークして4位につけるも、次々にそのタイムを上回る車両があり17位まで順位を落とした。ト部はさらに翌周1分36秒352へわずかにタイムアップするも順位は変わらず17位。これで決勝のグリッドが決まった。

決勝日 4日の3時間レースは、14時にスタート予定。

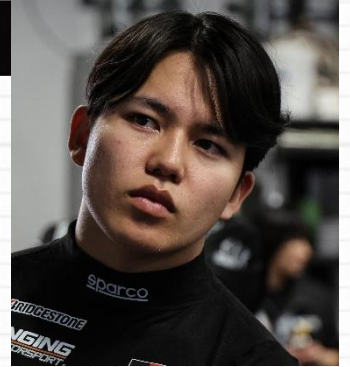


ドライバー 堤 優威

「ウェイトを積んだことでタイムを出すことが難しくなり、ト部選手が安定走行できるようにセッティングを変更したのですが、専有走行の時間帯でもニュータイヤを履いてもタイムが伸び悩んでしまいました。僕は何年かぶりにQ1を走ったのですが、セットは持ち込みから少し変更した程度に戻しました。Q2を担当していれば6位ぐらい行けたとは思いますが、明日は3時間あるので諦めずに頑張りたいです。決勝は雨上がりからの路面なのでピックアップも出るでしょうし難しいですが、チームの総合力を生かして上位を目指します」

ドライバー ト部 和久

「路温が下がって各車タイヤのウォームアップには多少苦労したとは思いますが、ポツポツ落ちて来た雨の影響はありませんでした。アタックについてはあまりドライビングで修正しきれなかったところがありましたが、もうちょっとやりようがあったのではないかと思います。性能調整もありますがトップ10は狙えるパフォーマンスだったと思うので自分の力不足を感じた予選になりました。決勝はしっかり追い上げを見せて、レースでも学べると思うのでしっかり強いチーム体制を生かした走りができたらと思います」



監督 加藤 寛規

「予想ではもうちょっと上に行けると思ったのですが、周りが思ったより速かったです。今夜から明朝にかけて大雨の予報が出ているので、決勝の路面が読めません。一番タイミングの良い時にピットインしたいので、最初のステントは長めにしたいと思います。プリチストンタイヤはそんな状況の時に強いので、それを生かした作戦を立てようと思っています。ですからきれいな3等分ではなく、どこかのステントを長めにするなど緩急つけてレースを組み立てないといけないのかなと思っています」

